

令和5年度

学校評価最終報告

1 達成目標及び検証

教職員アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの各項目で、肯定的な回答（1 + 2）の合計85%以上を目指す

2 回答の選択項目

	教職員	保護者	生徒
1	よく当てはまる	よく当てはまる	当てはまる
2	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる
3	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない
4	ほとんど当てはまらない	ほとんど当てはまらない	当てはまらない

3 評価基準

肯定的な回答（1 + 2）の割合による評価の基準

A：85%以上～100%（継続）

B：70%以上～85%未満（継続・改善）

C：50%以上～70%未満（要改善）

D：50%未満（至急対策検討）

(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校						
①学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ・行事や体験活動等の実施の際に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。						
②生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ・毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。						
③教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。 ・適時的に訓練を実施し、危機管理マニュアルの理解と改善を行う。						
		質問内容	判定		R5 中間	
教 員	①	学校教育目標を達成するための教育活動を実践している。	A	100%	A	92.3%
	③	生徒の様子の小さな変化にも気付くように意識している。	A	100%	A	92.3%
	④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	91.6%	A	92.3%
	⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	A	100%	A	92.3%
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	A	100%	B	84.6%
生 徒	B3	学校へ行くのは楽しいと思う。	B	81.9%	B	79.8%
	B4	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	95.5%	A	96.5%
保 護 者	①	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	A	88.2%	B	83.5%
	②	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	A	96.1%	A	96.2%
	③	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	A	88.2%	A	88.6%
	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	89.5%	A	91.1%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	86.8%	A	91.1%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

- 1学期同様生徒の変化を見逃さないようにアンテナを高くして日頃から生徒に接し、気になることは教職員で共有するようにしている。スクールカウンセラーとの連携も図り、悩みを話しやすくするなど、相談環境を工夫して行うことができた。
- 1学期に比べ生徒自らが危険を察知・回避する力の育成に向けて意識するようになった。地震対応の避難訓練を中心に、非常災害時の安全について考えさせる機会が多くあり、生徒はもちろん、教員の防災意識も高まったと思われる。
- △「学校が楽しい」と全ての生徒が感じられるように、毎日の教育活動や学校行事等の機会を生かして、居場所づくりや絆づくりの取組を進めてきた。しかしながらまだまだ課題がある。今後は行事等はもちろんだが、普段の学習活動において、学習指導と生徒指導の一体化を意識して、生徒が安全・安心に過ごせるよう取り組んでいきたい。

(参考 いじめ認知件数 2件 不登校生徒数 6人)

【いじめ予防教室】



【避難訓練・学校安全総合支援事業】



【石川県総合防災訓練】



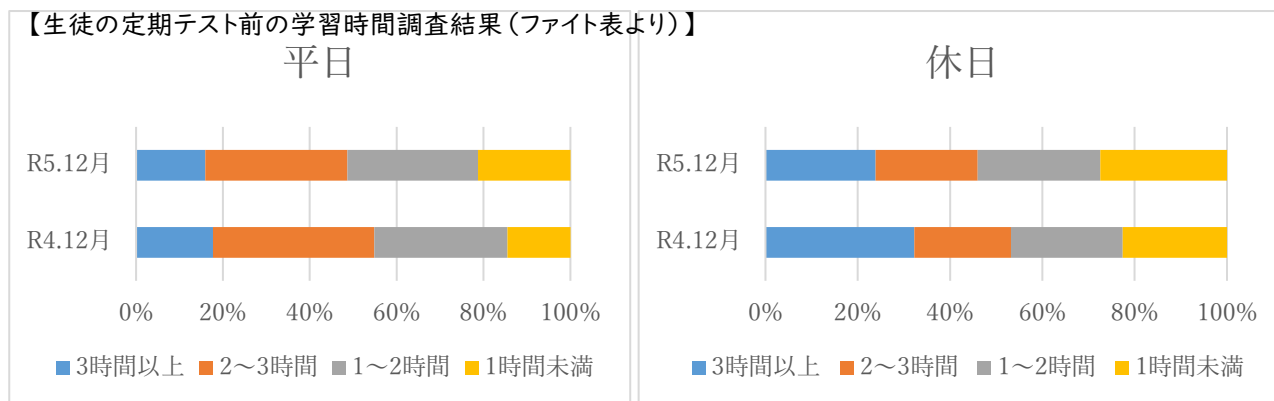
(2) 生徒の確かな学びを保障する学校

- ①生徒一人一台端末を積極的に活用し、GIGAスクール構想の実現に努める。
 ・積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。
- ②主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。
 ・生きて働く知識・技能の習得を確かなものにする。
 ・生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。
- ③体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科等横断的な学びを推進する。
 ・体験活動等の目的やねらいを明確にし、活動後にその成果を実感させる。

		質問内容	判定		R5 中間	
教職員	②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	A	90.9%	B	75.0%
	⑨	授業で、思考を伴うアウトプットができる場面を設定している。	A	100.0%	A	100.0%
	⑩	授業で、生徒は思考を伴うアウトプットをしている。	A	90.9%	A	100.0%
	⑪	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	A	81.8%	B	75.0%
	⑫	自然や日常生活、社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	A	100.0%	A	91.7%
	⑬	指導者として意図をもって、授業で一人一台端末を活用している。	B	81.8%	A	91.7%
	⑭	体験学習・総合的な学習の時間で、教科横断的な学びを関連づけている。	B	81.8%	B	83.3%
	⑮	授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	100.0%	A	100.0%
		⑰	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	B	80.0%	C
生徒	A1	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	89.1%	A	89.5%
	A2	授業では、ペアや全体に対して伝えたり、発表したりする場面がある。	A	90.0%	A	90.4%
	A3	授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	95.5%	A	95.6%
	A4	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	99.1%	A	98.2%
	A5	授業では、自分の考えを他の人に伝えたり、書いたりすることができていると思う。	A	85.6%	A	86.0%
	A6	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	B	84.7%	A	88.6%
	A7	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	A	98.2%	A	96.5%
	B5	家の人と学校の出来事や将来のことについて話をする。	B	84.7%	B	76.3%
	B6	携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている。	B	76.5%	B	83.3%
	保護者	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	72.3%	B
⑨		お子さんは、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について家の人と約束したことを守っている。	D	47.3%	C	55.2%
⑩		家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノ（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	D	43.4%	D	46.8%
⑪		家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	B	80.2%	B	77.2%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

家庭学習		R5 最終	R5 中間	
生徒 B7	平日に1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。	30分以内	15.3%	29.8%
		30分～1時間	41.4%	34.2%
		1時間～2時間	33.3%	26.3%
		2時間以上	9.9%	9.6%
保護者 ⑭	お子さんは、平日に1日あたりどれくらいの時間家庭学習をしていますか。	30分以内	34.2%	30.4%
		30分～1時間	38.2%	46.8%
		1時間～2時間	23.7%	20.3%
		2時間以上	3.9%	2.5%
テレビ、ゲーム、インターネット（SNS、動画視聴等）		R5 最終	R5 中間	
生徒 B9	平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットをしますか。	1時間以内	18.0%	10.5%
		1時間～2時間	25.2%	24.6%
		2時間～4時間	25.2%	34.2%
		4時間以上	31.5%	30.7%
保護者 ⑮	お子さんは、平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやゲーム、インターネットをしますか。	1時間以内	25.0%	17.8%
		1時間～2時間	34.2%	35.4%
		2時間～4時間	29.0%	35.4%
		4時間以上	11.8%	11.4%

【生徒の定期テスト前の学習時間調査結果（ファイト表より）】



【考察・改善】

- 1学期に引き続き、自分の思いや考えをアウトプットする活動に重点を置き、共通実践している。授業のねらいの達成につながる思考を伴ったアウトプットにつながるよう研修を積んできた。自分の考えを書いたり伝えたりできる生徒がさらに増えていくための工夫を目指していく。
- 能登町の飲食店の紹介文を英語で書く、海洋ふれあいセンターでの学習など地域のものや人から学ぶ学習内容を多く取り入れた。また生活と関連付けて学習意欲を高めるなど指導の工夫も見られた。
- △家庭学習の量については、引き続き大きな課題である。7月のアンケートと比較すると微増しているが、それでも56%の生徒が、平日に1日1時間以上の学習習慣がない現状である。定期テスト前の期間でも20%程度の生徒は1時間未満の学習時間となっている。授業や能都中検定と関連付けた課題には取り組む様子があった。今後も家庭学習の必要性が感じられるよう計画的に宿題を出すことで、家庭学習の習慣を身に付けさせたい。

【校内授業研究】



【サポート研修】



(3) 教師の研修意欲が高い学校

- ①ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。
・校務支援システムを活用して業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。
- ②人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。
・学校生活の中での教師や生徒の言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整える。
- ③日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。
・報告・協議事項は事前に起案し、校務支援システム等で周知する。

		質問内容		判定		R 5	中間
教 職 員	⑯	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	A	100%	A	91.7%	
	⑰	学校生活の中で言葉遣いに注意を払い、適切な言語環境を整えている。	A	91.6%	A	100.0%	
	⑱	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	B	83.3%	B	84.6%	
	⑳	日常的に共通理解やコミュニケーションを図るようにしている。	A	100%	B	84.6%	
	㉑	報告・協議事項は、全員に周知されている。	B	83.3%	B	84.6%	
生 徒	B1	自分にはよいところがあると思う。	B	84.6%	B	78.9%	
	B2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	A	91.8%	A	87.7%	
保 護 者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	89.4%	A	91.1%	
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	86.8%	A	91.1%	
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	72.3%	B	73.4%	
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)						

【考察・改善】

- ◎要請訪問の実施や研究授業を1日に2人行うなどの工夫をし、全員が研修に臨みやすいようにしたことで研修意欲が高まったものとする。また、授業整理会では、各チームからの課題を出し合って多面的・多角的に議論したり、共通実践を共有したりすることで、全員で授業改善しようとする姿が見られた。
- 生徒アンケート「自分にはよいところがある。」の質問において、B判定ではあるが、5.7%の伸びが見られた。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。」の質問で4.1%の伸びが見られることから、文化祭などの学校行事や日頃の授業において、生徒一人ひとりをその場で褒め、認める声かけを多くしてきたことで生徒自身のよさへの気づきとなったものとする。
- △保護者アンケート「授業はわかりやすいと言っている。」の質問において、肯定的回答が伸びていない。教師の研修意欲は向上しているが、それが生徒自身の「わかりやすい」という実感につながっていない。これは、学力向上ロードマップにおけるPDCAサイクルの「C(チェック)」がうまく機能していないことが要因の1つとして考えられる。学力テスト等における検証・分析を年間通して追跡し、改善策を講じていく必要がある。

【校内研修 (安全教育)】



【能都中祭】



【研究授業の様子】



(4) 地域社会の一員として信頼される学校

- ①学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。
・月2回以上、学校HPを更新する。
- ②学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。
・学校評価結果を学校HPで公開し、改善の為の具体的な取組を推進する。
- ③地域人材や施設を積極的に活用し、ふるさと教育の推進と郷土愛の醸成を図る。
・各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。

		質問内容	判定		R5 中間	
教職員	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	C	66.7%	C	53.8%
	②②	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。	B	83.3%	C	69.2%
	②③	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	A	100.0%	A	92.3%
生徒	B10	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	B	76.5%	B	79.8%
保護者	①①	教職員は、保護者との連携を密にしている。	B	84.2%	A	91.1%
	①②	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	A	86.8%	B	83.5%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

- ◎個々の生徒の気になる様子について、連携を図るために保護者との連絡を密に行うようにしている。また、学校便り・ホームページ等を通して、日々の教育活動が伝わるような情報発信に努めている。さらに、メール配信を活用して、必要な情報が保護者へ伝わるようにしている。
- 昨年度より肯定的回答が増加していた地域の人材・教材を取り入れた授業については、さらに中間評価よりも改善されている。各教科等でも地域人材や地域教材の活用に取り組んできたためだと考えられる。今後、生徒の地域への関心が高まるように、取組を継続していきたい。
- △生徒会による挨拶運動やこれまでの継続した取組により、生徒のあいさつや返事については、中間評価時よりも改善の傾向がみられる。しかしながら、あいさつや返事を場面や状況に応じて自ら判断して適切に行う力は十分とはいえない。生徒自身が考えて行動する場を増やすと共に、その行動の適切さを振り返ることをうながしていくよう根気良く取り組む必要がある。
- △地域とのつながりを意識できるよう2学期も石川県総合防災訓練や防災教育等に取り組んできたが、生徒の地域問題等への関心の高まりに結びついていない。地域の問題を自分事として捉える場面や地域のために自分たちができることを考える活動を取り入れていく必要がある。

【炭窯体験】



【防災教育】



【イカの解剖教室】

